

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1273100295		
法人名	社会福祉法人天祐会		
事業所名	グループホーム富士見苑		
所在地	千葉県富津市篠部2310-3		
自己評価作成日	鈴木康支	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ウェルビーイング		
所在地	千葉県木更津市東中央1-1-13マコーラ第一ビル6階604		
訪問調査日	平成30年3月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、ご利用者一人ひとりが、楽しく安心して、のびのび生活できる様に支援をし

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設は自然に囲まれ、お天気の良い日は富士山が見える。平屋造りの2ユニットのグループホームで、落ち着いた雰囲気のある施設である。利用者は庭を散歩する事も出来る。毎日の食事はカロリー計算されたメニューで、季節の食材を取り入れ、職員の手作りである。季節の行事で地域に出掛ける事も多い。花見や東京湾観音など、公園でお弁当を食べたりする。運営推進会議では、市、包括、区長などの参加で年6回行っている。避難対策や、インフルエンザ対策など、話し合いが行われ、指摘やアドバイスなど受ける。医療は月1回の往診で、何かあれば往診可能である。メディカルケアステーションを行い、連絡、情報を提供している。利用者が安心安全に暮らせる為に、内部・外部研修を行い、質の確保に努めている。職員は、利用者と共に過ごして、信頼関係を作り、環境作りに努め、過ごし易い施設を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を掲示し、把握できる様になっている。また、月1回の職員会議時に理念の唱和をしている。	会議で理念を唱和している。毎日のケアサービスを提供する上での大切な理念である。職員は共有し、地域密着サービスの意義や役割を考え、地域と関わりながら実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的には交流はしていない。敬老会、座談会、ゴミゼロ運動等の地域行事時に参加し、交流をしている。	地域で行う敬老会に出席。ゴミゼロに参加。地域の人とコミュニケーションを取る。地域で必要とされる活動に参加している。出掛ける利用者は同じ人が、少しでも関わりを作る為に努力をしている。	地域との付き合いとして、敬老会、座談会、ゴミゼロ運動には今後も継続して参加して、交流を深めて欲しい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進時に利用者支援について、報告・説明する以外は行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政から避難訓練の練度を上げ、速やかに避難が出来る様にとの指摘を受け、難訓練を年2回から年3回実施に変更した。また、無断外出したご利用者の安全確保支援の確認を行った。	年6回の運営推進会議が行われている。介護保険課、富津市包括、利用者、区長などの参加で行われ、避難訓練を強化する。利用者の安全確保を話し合い、利用者が安全・安心に暮らせる為に取り組む。会議のメンバーを増やし、議題を作り、より良い会議にしたいと考えている。出された意見や要望は、実践に向けている。	今後も充実した運営推進会議に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議、介護認定審査時以外は殆ど関わりがない。しかし、当施設に空室があった際に家族や居宅介護事業者が入居相談に来た際には、当施設を紹介したりまた、市から生活保護者が入居が必要になった場合には、入居相談をしてくる。	市は、運営会議に参加する。生活保護者の入居の件で訪問する。市とは施設での利用者の問題解決の為に理解や支援が必要であり、情報を共有し、連携を図りたいと考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修時や申し送り時に身体拘束は行なってはならない事を説明し理解をさせている。また、玄関施錠は日中は施錠していない。施錠時間は夕方19時30分頃施錠し、翌朝に6時頃、開錠をしている。	日中は、施錠をせず自由に出入りが出来る。夕方7:30から施錠をする。身体拘束の社内研修を行い、職員の理解を深めている。安全を確保し、自由に暮らす事が出来るように、声掛け、誘導など見守りを徹底し、支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修や申し送り時に虐待について、説明をしている。また、職員同士で注意しあう様に話している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修で学ぶ以外は行なわれていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や契約解除時に家族に説明を行い、不明点がないかその場で尋ねている。後日、何か不明な点があれば、連絡をする様、話している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族の意見を表す機会は運営推進会議職員会議、日々の申し送りで行なっている。	利用者、家族は運営推進会議や訪問された時に、意見や要望を話す事が出来る。外部評価の家族アンケート調査で、手紙に良い点や悪い点などを書く事が出来る。感謝の言葉を書いている。家族とは話し易い関係を作り、何でも話せるよう心掛け、意見は前向きに受け止め、サービス向上に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時または職員会議時に意見、提案を聞いている。	職員会議で、利用者の状況を話す。個人の相談を受ける。職員同士のトラブルは利用者にも影響する。人を相手にする仕事である為に、気配りをし、早目の対応に心掛けたいと考えている。努力や実績を把握し、手当の見直しを行い、向上心を持って働けるよう対応している。内部研修、外部研修に参加し、質の確保に心掛け、学ぶ機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	手当での見直し、定年の延長また、個々の職員評価を行い、昇給や賞与アップを実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修、法人内研修、外部研修に参加させ知識、技術のレベルアップを図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行なっていない。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に不安点や疑問点を尋ね入所生活の不安の解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の悩みや苦勞を聞き取りまた、施設サービス内容、料金を十分に説明し、信頼関係が築けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族から聞き取りを行い、個々のご利用者に即した支援が出来る様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に掃除や食器拭き、洗濯物たたみ、買い物への同行等を行い家庭的な雰囲気を作り、共に生活している様にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に受診や面会依頼を行い、ご利用者を施設と共に支援できる様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者から知人等への連絡依頼があれば対応しているが、それ以外は行なっていない。	利用者と外部の友人・知人などの付き合いはあまり無いが、地域に出掛けランチを食べる。お弁当を持ち花見に出かける。お寿司を食べるなど、楽しい一時を過ごしている。利用者同士の関係が上手く行くように、職員が間に入り、共に暮らしが楽しめるよう支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	軽作業時(掃除や洗濯物たたみ等)やレクリエーションを行う際や、利用者同士を引き合わせたりし、利用者同士の関係が築けるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族はら相談があれば対応しているが、こちらから積極的には行っていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その都度、ご利用者の希望、意見を聞きそれを実現できる様に努めている。意向把握が出来ない方は生活歴や接した際の表情で把握をしている。	介護度の低い利用者は、買い物に行きたいなど、自分の意思を話す。把握困難な利用者は家族や、生活歴から汲み取る。表情からはほとんどわからない。本人はどうしたいのか、視点に立ち話し合い、検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に本人や家族、ケアマネに尋ねまた、施設利用後も何かあれば本人、家族に尋ねている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子観察やモニタリング時に把握をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議や担当者との話し合い時に検討し、それぞれの利用者の状況に合った、介護計画が出来るようにしている。	介護度が高くなるとモニタリングを行う。病気がきっかけで認知症が酷くなる場合もあり、注意深く見守る。日々の様子を職員会議で話し合い、臨機応変な対応に心掛け、見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や日誌により、情報の共有化をし利用者支援や介護計画の見直しをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存サービスの提供が多いと思うが、家族や利用者の要望は可能な限り、対応するようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	観光地や外食産業、ボランティアを利用し、楽しい施設生活が送れる様に支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には主治医に受診を行なっているが、希望があれば他の医療機関に受診をしている。主治医とは何かあれば相談をしました、メデカルケアステーション(医療版SNS)を使用し随時、連絡・情報提供をしている。	掛り付け医は月1度の往診。利用者に何かあれば往診してくれる。メディカルケアステーションを使用し、連絡や情報を提供している。月に1度訪問看護師の訪問があり、一人ひとりの健康管理や、医療支援に繋がっている。入院時には病院に訪問し、退院がスムーズに出来るよう連携を図り、支援に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月一度の訪問看護時に利用者の状況を診てもらおうと共に利用者の様子を伝え健康維持に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院に様子伺いに行ったり、連絡を取り合い協同をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に確認をし、主治医にも意向を伝えられている。施設で看取る場合には施設で行える事を話し、家族・利用者理解をして頂いている。	入居時に利用者・家族に、意向を聞いている。施設で看取りは行える事は伝える。医師・職員が連携して、最大のケアを行う。最近では看取りを希望する利用者が多く、話し合う機会を作り、急変時でも対応が出来る。社会研修や救命措置を備え安心である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修(座学)にて救命措置を学び、救急時マニュアルを備え付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回、避難訓練を実施している。また、避難訓練の様子、結果を運営推進会議で発表し、地域役員、市役所職員に把握してもらっている。地域役員からは「何かあれば応援に来るので、遠慮なく言って下さい」と協力的である。	年3回避難訓練を行い、夜間の訓練に力を入れている。施設の両脇が非常口で、空地に出る事が出来る。訓練の様子を運営推進会議で発表し、市や地域の役員へ伝えている。地域役員から何かあれば応援に来ますという、協力的な言葉を頂き、心強く思っている。地域の協力は必要であり、連携を図って行きたいと考えている。備蓄品を備え安心である。	今後も夜間訓練に力を入れる事に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の気持ちを考えながら、優しく、丁寧な話し方をする様にしている。また、申し送り時や職員会議時に利用者への言動に気をつけるよう話しをしている。	利用者に対しての言葉使い、誇りをきづつけない、日常的に確認し、気を付ける。職員会議や申し送りでは、責任ある取り扱い、管理を徹底し、目立たずさり気ない言葉掛けを促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	助言を行ったり、話しやすい態度で接し、利用者が自己決定できる様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には、個々の利用者のペースで過ごせる様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で衣類を決めてもらったり、職員が好みを聞き衣類を揃えている。意思決定が出来ないご利用者は職員が決めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は一緒に行っていない。たまに、おやつを作る際に、食材を混ぜる等の手伝いを行って頂いている。片付けに関しては、食器拭きと食器を棚に入れる片付けをしてもらっている。	利用者の状況により、粥、刻み、ミキサー食を提供し、栄養摂取が出来るようにしている。おやつ作りを行い、ホットケーキやフルーチェを混ぜる工程を利用者が行う。器の片づけなど、出来る人が行う。外食は寿司やお弁当を食べる人、美味しく食事をする為にも、口腔ケアを行い、清潔保持を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の摂取状況を見て、粥・刻み・ミキサー食を提供し、栄養摂取が充分に行なえるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方は自分で行って頂いている。自分でできない方は夕食後に行なっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本としている。自分でトイレに行けない方は、基本的には定時にトイレ誘導を実施しているが、利用者の表情・行動を見て、随時のトイレ誘導も行っている。現在、オムツを使用している利用者はいない。	トイレで排泄を可能にする為に、声掛け誘導を行い、個別の排泄の支援に繋げている。自分でトイレに行く人は1人。頑固な便秘の人など、水分補給。牛乳、バナナなど、出来る事を行う。体操や体を動かし、少しでも薬に頼らないよう頑張っている。どうしても無理な時は、医師と相談している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食に牛乳・バナナを提供した、便秘症の方には水分を多めに摂取する様にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は順番で行っている。入浴希望があった際には、可能であれば入浴をしている。	入浴は週2回～3回入る。午後1:30～3:30まで、時間に余裕があれば回数を増やす事も出来る。季節湯に入り、香りを楽しむ。体調改善や、清潔保持に心掛け、気分よく入浴が出来る支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者のペースで休んで頂いている。自分で休む事が出来ない方は、午後に1時間程度、職員が居室に誘導し休ませたりまた、利用者の様子を見て休んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を備え付け、分からない事があれば確認できる様にしている。薬は職員が管理し、		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員の手伝いやレクリエーションを実施し、楽しく過ごせる様にしている。得意な事、例えば縫い物等があれば、雑巾縫い等をして頂いている。利用者から行きたい場所やしたい事があれば、可能な限り対応する様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族に連絡をして対応してもらるか、施設でいける場合には施設で対応している。また、家族には病院受診や買い物に行ってもらっている。	病院の受診に家族と出掛けている。ほとんどの人は、施設で対応している。買い物や散歩に出掛ける。季節の行事やその時の状況に合わせて出掛ける。行事の様子は富士見新聞に掲載され、楽しい時間を過ごしている。地域に出掛け、食事や買い物をする事で、ストレス発散や五感刺激、日差しを浴び、健康管理、職員も一緒に出掛け、お互いにストレス発散する機会を作っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は施設で管理をしている。買いたい物があれば、職員が購入をしえる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	依頼があれば対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃、整理整頓に努め生活しやすいように配慮をしている。また、季節の行事、七夕やクリスマス等があれば飾りつけを行い、季節感が出るようにしている。	リビングや廊下は天井が高く、日差しが入り明るい。利用者はリビングで寛いでいる。食事はカウンター式のテーブルである。畳の部屋では利用者が洗濯物をたたむ。照明は和紙で作られ落ち着いた。壁には行事の写真や、観葉植物が飾られ、整理整頓された共有空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用制限をせず、自由に使用できる様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれば物や思い出のある物を持ち込んで頂き、使用している。	居室は利用者の思い出の品物やテレビ、ベッド、座布団、カレンダーを置き、過ごし易い居室作りに心掛けている。職員の協力を得ながら、使い慣れた物を置き、自宅とギャップを感じさせない工夫をしている。窓から外の様子を見ながら季節を感じる事も出来る。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設はバリアフリー化しており利用しやすいようにしている。		